

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-48	中学校	数学	数学	1
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	数学 701	新しい数学 1		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く

今の子どもたちが社会で活躍する頃には、グローバル化や情報化社会の進展、人工知能(AI)の進化により、予測が困難な時代となっています。

このような時代にあって、数学科においては、未知の問題に直面しても、それに対して積極的に向き合い、見方・考え方を働かせながら自立的、協働的に解決し、新たな価値を創造していく力を培うことが求められています。

この教科書は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から一つ一つの学習活動の質を高め、本書で学ぶ全ての生徒が自らの可能性を伸ばし、よりよい未来を拓くために必要な資質・能力を身につけることをめざして編集しました。



「主体的・対話的で深い学び」を可能にし、以下を実現します

＼特色／

1

「わかる」「できる」を確かなものにする

問題解決的な学習を重視し、自ら考えたり調べたりする活動を通して、確かな知識や技能が身につくようにします。

＼特色／

2

「深い学び」で、考える力が身につく

「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」を働かせた問題発見・解決を通して、思考力や表現力を育成し、「見方・考え方」をさらに豊かなものにします。

＼特色／

3

数学のよさを実感し、もっと学びたくなる

振り返る活動や社会とのつながりを大切に、数学のよさや有用性を実感して、次の学びに向かう意欲を高めます。

「わかる」「できる」を確かなものにする

① 問題解決的な学習で、確かな「知識・技能」が身につく

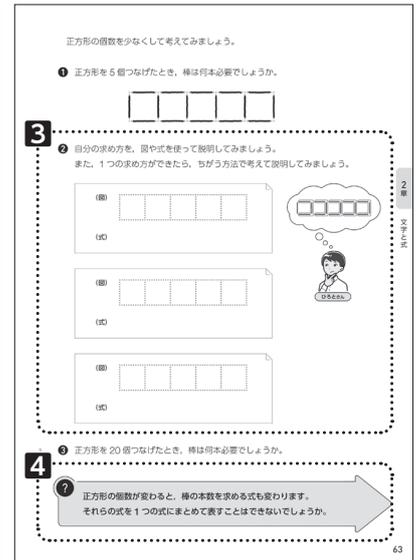
「知識・技能」について、深い理解を伴うものへと質を高めることが求められています。本書では、問題解決的な学習を重視して、その質を高め、確かな「知識・技能」が身につくようにしています。

章とびら・節の導入

- 「何だろう?」「どう考えたらよいか?」…「章とびら」では、1コマの場面を提示して、生徒の疑問を引き出し、章の学習を通して解決していきます。(→右図①)
- 章の学習を通して身につけたい「資質・能力」が生徒に伝わるよう、タイトルと文章で表現しました。(→右図②)
- 「節の導入」は、生徒が書き込んで考えることもできるよう、ゆとりを持たせた紙面で構成しました。(→右図③)
- 問題解決を振り返って生じた疑問④が、次の学びにつながるようにしています。(→右図④)



1年 p.61 「章とびら」



1年 p.63 「節の導入」

Qから始まる数学的活動

- 「Q (考えてみよう・調べてみよう)」では、問題解決的な学習の質の向上に取り組みました。「補助発問 (①, ②, …)」を手がかりに、生徒が既習をいかして自ら考えたり調べたりする活動を通して、新たな知識や技能を身につけていきます。既習の知識と関連づけて深く理解し、様々な場面で活用できる技能へと高めることができます。(p.64-65, 94など)

② 基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できる

基礎的・基本的な知識や技能の習得に課題がある場合は、その手立てが必要となります。本書では、全国学力調査や各自治体の学力調査のエビデンスに基づき、生徒のつまずきに対応するための工夫を行っています。

例 → 問(◆ダイヤモンドマーク) → 補充の問題

- 例と問の段差によるつまずきへの対応として、例と似た型の問題に「◆マーク」をつけ、意図的に取り出して指導できるようにしています。
- 問の類題をくり返し練習するための「補充の問題」を巻末に用意し、基礎的、基本的な知識や技能が確実に習得できるようにしています。生徒の個に応じて、家庭学習などで利用することができます。

学びのつながり

- 巻末「学びのつながり」では、前の学年(算数)と当該学年(1年)の重要事項をまとめ、必要に応じて確認できるようにしています。「算数の確認」では、割合や速さなど、つまずきの多い内容を取り上げています。(p.305-309)

1年 p.50

3 四則の混じった計算

正負の数の四則の混じった計算を考えてみよう

例 1

$$9 + (-2) \times 8$$

$$= 9 + (-16)$$

$$= -7$$

加減と乗除の混じった計算では、乗除を先に計算する。

問 1 次の計算をしなさい。

*① $5 + 2 \times (-3)$	② $-7 - 6 \times (-3)$
③ $2 \times (-5) + (-9)$	④ $-16 - 6 \div (-2)$
⑤ $(-3) \times (-4) - (-5) \times 2$	

◆(1)

◆マーク

➡ p.266 ②④

補充の問題へのリンク

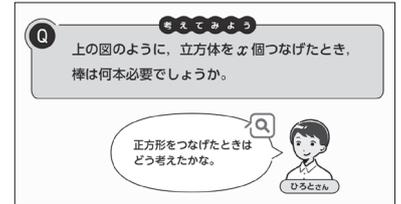
「深い学び」で、考える力が身につく

① 「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」を意識づける

「深い学び」の実現には、「見方・考え方」を働かせることが鍵となります。本書では、問題解決で働かせる「見方・考え方」を引き出し、生徒に意識づける工夫をしています。

Q 虫めがねマーク

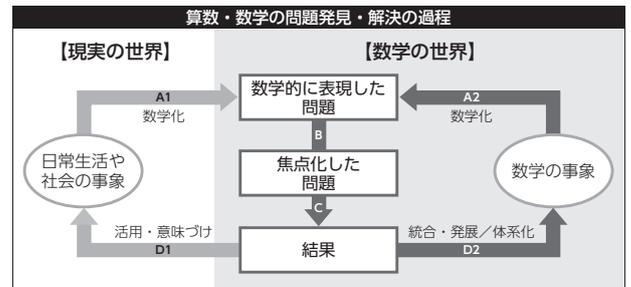
- 問題解決で働かせる「見方・考え方」を引き出したり、振り返って意識づけたりする吹き出しに「Qマーク」をつけています。既習とつなげて見通しを立てたり、振り返って統合的に考えたりするきっかけとなるようにしています。(p.82, 123など)
- 特に、後の学習でもいかされる大切な「見方・考え方」は「Qマークの囲み」でまとめ、意識づけるようにしました。(p.35, 53, 57, 119, 141, 174など)



1年 p.81

② 問題発見・解決のサイクルを回して、考える力を身につける

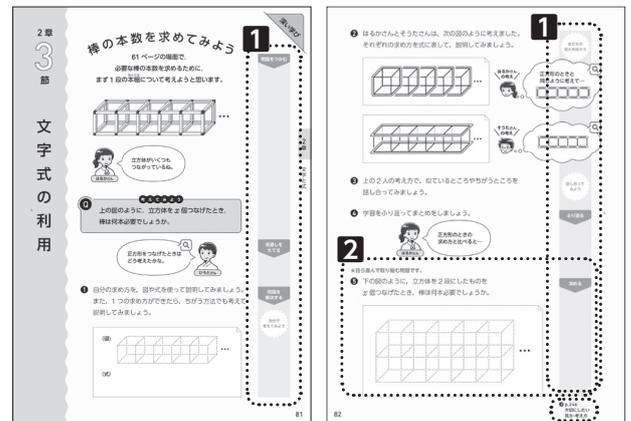
「主体的・対話的で深い学び」の実現には、右図のような問題発見・解決の過程を遂行する活動の設定が重要です。本書では、知識・技能を活用する場面で問題発見・解決の過程を意図した活動を紙面化し、「思考力・判断力・表現力」の育成を図っています。



算数・数学ワーキンググループの資料をもとに自社で作成

深い学びのページ

- 知識・技能を活用する場面で、問題発見・解決の過程を意図した活動を紙面化した「深い学びのページ」を、ほぼ全ての章に設けました。(p.55-56, 81-82, 101-102など)
- 「問題をつかむ→見通しをたてる→問題を解決する→振り返る→深める」の過程を示し、問題解決の進め方を意識して取り組めるようにしています。(→右図①)
- 「深める」では、問題の条件を変えるとどうなるかなど、統合的、発展的に考えるきっかけを示し、さらに深い学びへと導きます。(→右図②)
- 巻末「大切にしたい見方・考え方」では、「深い学びのページ」の問題解決を振り返って、「見方・考え方」がさらに豊かなものになるようにしました。(p.245-250)



1年 p.81~82 「深い学びのページ」

活用の問題

- 実生活や他教科の学習など様々な場面で知識・技能を活用する力を問う「活用の問題」を用意しました。(章末「章の問題B」)
- 自分の考えを表現する「記述式の問題」を設け、身につけた「思考力・判断力・表現力」を伸ばします。無答が多いことから、巻末「解答」には「考え方」や「説明のポイント」を示し、粘り強く考えることを促す工夫をしています。(p.280, 283, 287)

大切にしたい見方・考え方へのリンク

他教科 保健体育

教科横断的に取り組む参考となる「教科関連マーク」

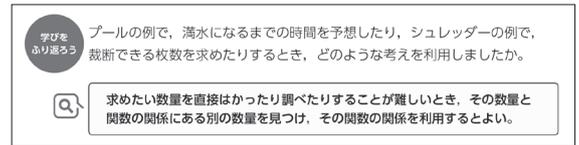
1年 p.186 「活用の問題」

数学のよさを実感し、もっと学びたくなる

国際的な調査において、日本の生徒は数学を学ぶ楽しさや実社会との関連に対する肯定的な回答が低いことが指摘されています。本書では、学びを振り返る活動や実社会とのつながりを知る機会を通して、数学のよさを実感し、次の学びに向かう意欲を高めます。

学びをふり返ろう

- 「学びをふり返ろう」では、内容のまとめりごとに問題解決を振り返って、大切な考え方などについて、話し合ったり自分の言葉でまとめたりする機会を設けました。数学のよさを実感し、次の学びに向かう意欲を高めます。(p.77, 207など)



1年 p.119

学びをひろげよう

- 「学びをひろげよう」では、数学と実社会や職業とのつながりを伝え（「知ろう」）、実際に体験すること（「やってみよう」）で数学の有用性を実感できるようにしました。(p.182-183, 240-241)



1年 p.182-183 「学びをひろげよう」

D ディーマーク

- 「Dマーク」の箇所では、インターネット上のデジタルコンテンツを使って内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めます。シミュレーションや実験映像のほか、学習に関連する他教科の教科書紙面、「学びをひろげよう」のインタビュー映像などを用意しています。(p.4-5) (<https://tsho.jp/03j/m1/>)

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
「数学的活動 (Q)」	・数学的活動 (Q) では、主体的な学習を通して論理的な思考力を伸ばすとともに、真理を求める態度を養い、自律性や創造性を培えるようにしました。(第1号, 第2号)	全体
「深い学びのページ」	・自立的、協働的に問題を解決する活動を通して、自他を尊重する態度を養えるようにしました。(第3号)	p.81, 82, 145, 146, 177, 178など
「学びをひろげよう」	・仕事で数学を活用している人を紹介し、知識や教養を身につけるとともに、職業観が培われるようにしました。(第2号, 第3号)	p.182, 183, 240, 241
0章 算数から数学へ	・1節では、九九表から見つけたまきを説明し伝え合う活動を通して、自他を尊重する態度を養えるようにしました。(第3号)	p.9~13
1章 数の世界をひろげよう	・1節では、日本各地の標高や気温を取り上げ、我が国の風土に興味・関心が持てるようにしました。(第5号)	p.19~22
2章 数学のこぼれを身につけよう	・1節では、本棚を作るための棒の本数を求める題材を取り上げ、数学と日常生活との関連を実感できるようにしました。(第2号)	p.61~63
3章 未知の数の求め方を考えよう	・1節では、リサイクルする紙パックの枚数を調べる学習を通して、数学と日常生活との関連を実感するとともに、環境の保全への意識が高まるようにしました。(第2号, 第4号)	p.89~91
4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう	・1節では、シュレッダーの紙ごみの量を求める学習を通して、数学と日常生活との関連を実感するとともに、環境の保全への意識が高まるようにしました。(第2号, 第4号)	p.119
5章 平面図形の見方をひろげよう	・1節では、日本の伝統模様である「青海波」や「松皮菱」を取り上げ、図形的美しさを見いだすとともに、日本の伝統文化に親しみが持てるようにしました。(第5号)	p.158
6章 立体の見方をひろげよう	・1節では、身の回りの形に着目していろいろな立体を見だし、それらの特徴や機能に気づき、数学と日常生活との関連が実感できるようにしました。(第2号)	p.188, 189
7章 データを活用して判断しよう	・2節では、大縄跳びの並び方を考える学習を通して、他者の異なる考えを尊重し、より良い考えを求め続ける姿勢を育成できるようにしました。(第1号, 第2号)	p.233, 234
「数学の自由研究」	・「地震のゆれの予測のしくみ」では、地震の伝わり方を調べる学習を通して、防災意識が高まるようにしました。(第4号)	p.259
	・「円周率πの歴史」では、過去の偉人の足跡を知ることで、日本人に対する誇りが持てるようにしました。(第5号)	p.256

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の専門家の校閲を受け、**文節改行**を取り入れたり、例や問に罫線を入れてまとまりを示したり、小問の数式どうしの行間を広げたりするなど、全ての生徒が読みやすい紙面を追求しました。(p.75など全体)
- 色数を減らし、余白を生かした**シンプルデザイン**を採用し、生徒が集中して学びやすい紙面を追求しました。(全体)

ユニバーサルデザインへの取り組み

- 色覚問題の専門家により、全ページにわたって配色に関する検証を行い、**カラーユニバーサルデザイン**に対応しています。(全体)
- ルビなどの小さい文字には**UDフォント**を採用し、視認性を高めています。(全体)

人権上の配慮

- 素材や場面は、社会的な性差別や人権差別を助長することのないように配慮しています。(全体)
- 男女の登場回数を均等にするとともに、特定の性別に役割や色を固定させたりしないよう配慮しました。(全体)

造本上の工夫

- 「**節の導入**」や「**深い学びのページ**」は右ページ始まりとし、次のページの考えが見えないようにしています。(p.27, 55など)
- 「**節の導入**」や**関数のグラフ・作図**などは直接かき込みができるようにしています。(p.63, 138, 169など)
- 「**紙の学習具**」を巻末に用意し、ミシン目や切り込みを入れて簡単に組み立てられるようにしています。(p.297-304)
- 用紙は、裏抜けがしにくく、丈夫で筆記特性の良い**白色軽量化用紙**を使用し、重量の負担を軽減しています。
- 環境に優しい再生紙や、化学物質を抑えた植物油インキを使用するなど、環境や健康に配慮しています。

② 今日的な課題への取り組み

現代的な諸課題への取り組み

- 「**防災・安全**」,**「環境**」,**「多様性の尊重**」,**「伝統・文化の尊重**」に関わる題材を取り上げ、それらに対する課題意識が高まるようにしました。(防災・安全 p.259, 環境 p.90, 多様性の尊重 p.149, 伝統・文化 p.158など)
- キャリア教育**の観点から、「**学びをひろげよう**」では仕事で数学を使う人を取り上げ、生徒が自らのキャリアに関心が持てるようにしました。(p.182-183, 240-241)

- オリンピック・パラリンピック教育**に関わる題材を取り上げ、日本人としての誇りや豊かな国際感覚が高まるようにしました。(p.60, 149, 182-183, 240-241)

道徳教育との関連

- 「**深い学びのページ**」では、説明し伝え合う活動を通して、多様な考えを認め、より良い考えや方法をつくり上げていく態度を養います。(p.55-56, 81-82など)

小・中の連携

- Q**や「**深い学びのページ**」では、問題解決の過程を重視した学習を取り入れ、小・中の指導方法の連携を図っています。
- 巻頭「**目次**」の「**前の学習**」では、小学校の既習内容との関連がわかるようにしています。(巻頭)
- 本文「**ちょっと確認(算数)**」や巻末「**算数の確認**」では、小学校の既習内容のうち、つまずきの多い内容を確認できるようにしています。(p.30, 305-306など)
- 比例**、**反比例**の学習では、小学校の既習内容を振り返り、数の範囲を拡張して考察する展開にしています。(p.123, 135)

③ 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 学習のまとまりごとに「**学習課題**」を設け、1単位時間の指導のねらいを捉えやすくしています。(全体)
- 「**深い学びのページ**」では、「**主体的・対話的で深い学び**」を実現する授業の例を示しています。側注では学び方の例を示し、問題解決の過程を意図した指導や対話的な学びを取り入れる際の参考になるようにしています。(p.145-146など)
- 「**マーク**」の箇所は、無償で使えるデジタルコンテンツを用意し、教材準備の負担を軽減することができます。(p.4-5)
- 節末**、**章末**、**巻末**の全問題の「**解答**」を用意しました。「**章の問題B**」は、詳細な解答と解答に至る「**考え方**」や「**説明のポイント**」を示し、生徒の自学自習を促しています。(p.278-291)

カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 他教科と関連のある題材に「**他教科 教科関連マーク**」を示し、教科横断的な学習の参考になるよう工夫しています。さらに、「**マーク**」のついた箇所では、関連する他教科の教科書紙面を閲覧できます。(p.60, 158など)

教育のICT化への取り組み

- 制度化された「**学習者用デジタル教科書**」,**「学習者用デジタル教材**」,**「指導者用デジタル教科書(教材)**」を発行予定です。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-48	中学校	数学	数学	1
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	数学 701	新しい数学 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

ポイント/

1

算数と数学をつなぐ授業開きで、学び方が身につく

数学の学習を始めるにあたって、活動の楽しさを味わいながら「学び方」が身につくよう、授業開きで使える単元を設定しました。

0章「算数から数学へ」

- 算数と数学の学びをつなぐ単元として0章「算数から数学へ」を設定し、中学校の最初の授業開きで使えるようにしました。(p.9-16)
- かけ算九九の表からきまりを見つける「オープンエンドの問題」を用意しました。答えのない問題で自由に発表でき、数学が苦手な生徒でも取り組みます。

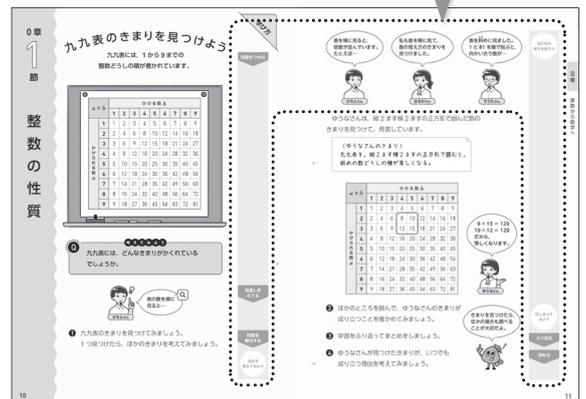
活動の楽しさを味わいながら、発表のしかたや聞き方、ノートづくり方などの「学び方」が身につきます。

次のページは見せずに、「章とびら」を使って多様な考えを引き出します。



p.9 [0章のとびら]

「学び方」の参考として、問題解決の進め方や発表の例を示しています。



p.10-11 [1節 整数の性質]

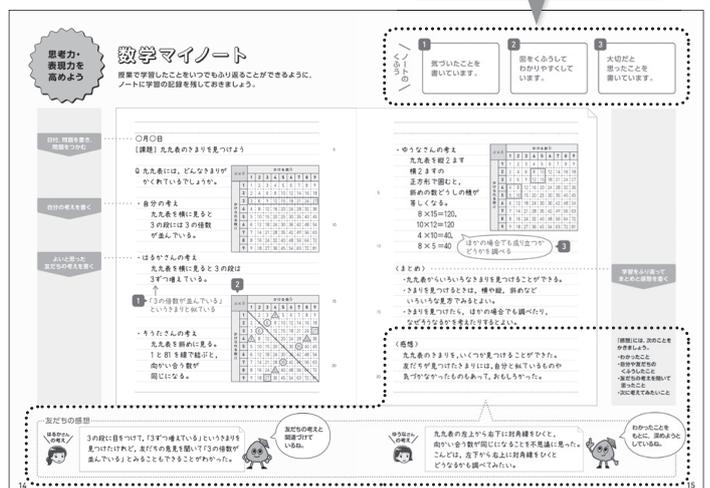
大切にしたい数学の学び方

- 巻頭「大切にしたい数学の学び方」を0章の学習と関連づけて取り上げることで、「学び方」の理解が深まります。(p.6-7)
- 自分で考えること、他者にわかりやすく伝えることの大切さを理解し、振り返って既習とつなげたり、さらに深めたりすることを促します。

数学マイノート

- 「数学マイノート」では、九九表のきまりを見つける活動のノート例を取り上げました。(p.14-15)
- ノートづくりのポイントや振り返りの記述の例を紹介しています。振り返りでは、情意的な記述から、他者の考えと関連づけたり、深めたりする記述へと高められるよう複数の例を取り上げています。

ノートづくりのポイント



p.14-15 「数学マイノート」

振り返りの記述の例

2

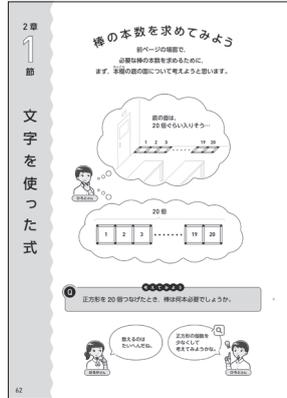
ストーリー性のある単元構成で、学ぶ意欲が高まる

生徒の思考の流れを大切にし、疑問が次の学びへとつながるストーリー性のある単元構成にして、学ぶ意欲を高めます。

単元を貫く題材の設定

- 単元全体で問題発見・解決のサイクルを回すことを意図して、内容を構成しています。たとえば2章では、本棚を作るのに必要な棒の本数を工夫して求めるという問題を解決するために、生徒の疑問を新たな学びにつなげ、必要な知識や技能を身につけながら単元全体で解決していきます。
- 生徒の学びをいかして発展させていくことで学ぶ意欲が高まるとともに、学習前後で自己の成長が感じられるようになります。

p.62 「1節 文字を使った式」



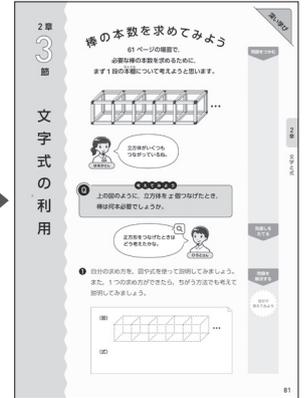
本棚の底の面に着目して正方形をつなげた棒の本数の求め方を考え、文字を使った式を学習します。

p.73 「2節 文字式の計算」



1節でつくった式は計算すれば同じになるのではないかの疑問をもとに、文字式の計算を学習します。

p.81 「3節 文字式の利用」



これまで身につけた知識・技能や考え方をいかして、本棚を作るのに必要な棒の本数を求めます。

3

実生活で、数学をいかして考える力が身につく

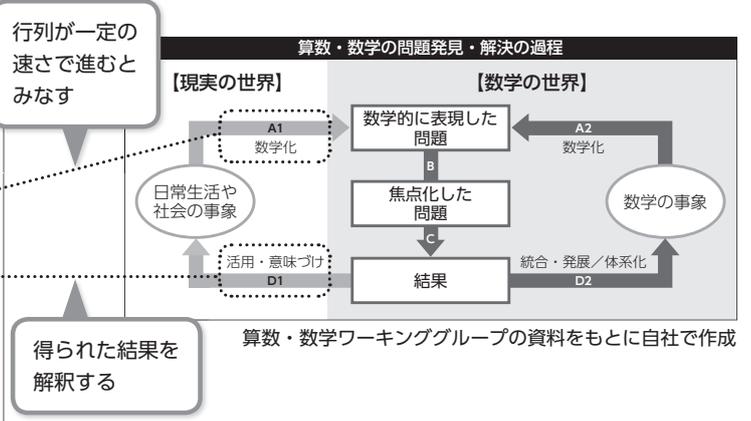
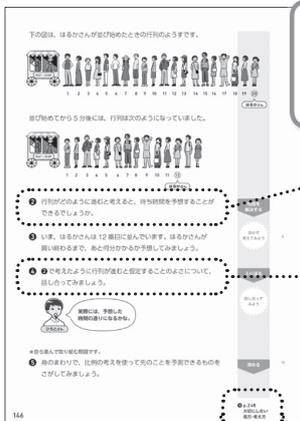
身につけた知識や技能を実生活でいかせるものへと高めるため、日常生活や社会の事象に関わる問題発見・解決を重視しています。

現実事象の問題解決の重視

- 「深い学びのページ」などで、日常生活や社会の事象に関わる問題発見・解決の過程を重視した活動を設定しています。(p.55-56, 101-102, 145-146, 233-234など)
- 「待ち時間の予想はできるかな? (p.145-146)」では、行列が一定の速さで進むとみなして、人数と時間に比例の関係が成り立つと仮定して解決します。活動を通してこのような考え方のよさを実感し、実生活でもいかしていけるようになります。



p.145-146 「待ち時間の予想はできるかな?」



● p.248 大切にしたい見方・考え方

大切にしたい見方・考え方 (p.248-249) で、さらに理解が深まります。

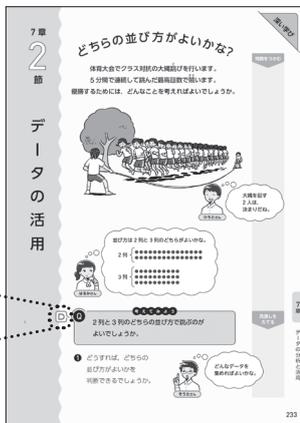
4

データをいかして問題を解決する力が身につく

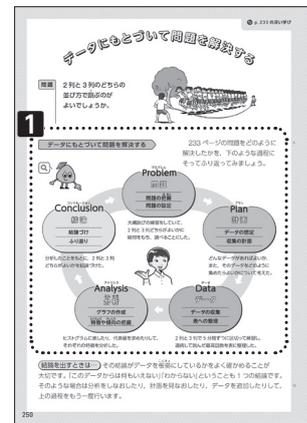
実社会で必要な統計的問題解決力を高めるため、身近な場面の問題解決を通してその方法を理解するとともに、社会とのつながりを知る機会を設けています。

統計的な問題解決の重視

- 「どちらの並び方がよいか? (p.233-234)」では、大縄跳びで優勝するのに2列と3列のどちらの並び方がよいかを、データをいかして解決する活動を設定しています。
- 「大切にしたい見方・考え方 (p.250)」では、問題解決の過程を振り返って、その手順を「PPDACサイクル」(→下図①)としてまとめ、身近な問題解決にいかしていけるようにします。
- 「**D**マーク」(→下図②)では、統計ツールと必要なデータを用意しました。ヒストグラムや度数折れ線などを簡単に作成でき、説明し伝え合う活動の時間を確保することができます。



p.233-234 「どちらの並び方がよいか?」



p.250 「大切にしたい見方・考え方」

学びをひろげよう

- 「学びをひろげよう (p.240-241)」ではフェンシング競技のスポーツアナリストを紹介(「知ろう」)し、実際に体験してみる(「やってみよう」)ことで、学びが社会にいかされていることを実感できます。

5

作って動かして、図形に対する感覚や理解が深まる

図形の学習では、生徒が立体に親しみ空間認識力が高まるよう、観察や操作を取り入れた活動ができる様々なツールを用意しています。

紙の学習具

- 5種類の正多面体を組み立てて観察できる「紙の学習具」を巻末に用意しています。(p.297-304) 角錐の体積の求め方を調べる学習具も新たに用意しました。
- ミシン目や切り込みを入れ、生徒が簡単に組み立てることができるよう工夫しました。作業の時間短縮につながります。

D ディーマークコンテンツ

- 「**D**マーク」の箇所では、インターネット上のデジタルコンテンツを使って、内容の理解を促します (p.5)。教材準備にかかる負担の軽減につながります。
- 図形の学習では、回転体 (p.201) など図形を動的に観察できるシミュレーションを用意し、理解が深まるようにしています。



観点別特色一覧

<p>教育基本法の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題解決的な学習を重視し，自立的，協動的に解決することを通して，自他の価値を尊重しながら能力を伸ばし，創造性を培います。(全体) ● 題材の選定にあたっては「防災・安全」「環境」「多様性の尊重」「伝統・文化の尊重」の観点を重視し，それらに対する課題意識を高め，大切にしようとする態度を養います。(p.259, 90, 149, 158など)
<p>学習指導要領の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 各章で育成をめざす「資質・能力」を明確にし(章とびら)，それらの育成のため，「主体的・対話的で深い学び」の視点から問題解決的な学習の質の向上に取り組みました。(全体) ● 「数学の問題発見・解決の過程」を念頭に置き，「見方・考え方」を働かせた「数学的活動」を適切に設定しています。(Q, 深い学びのページ)
<p>組織・配列・分量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の思考の流れを大切に，疑問が次の学びへとつながる系統性，連続性のある単元構成にしています。(各節の導入など) ● 本文や節末，章末，巻末に適切な内容・分量の問題を配列し，知識・技能やそれらを活用する力が段階的に身につくようにしています。 ● 活動の時間を保障するため，やや複雑な計算や発展性の少ない内容を精選し，13時間の予備時間を確保しています。
<p>「知識・技能」の習得のための取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Q」では問題解決的な学習を通して，新たな知識を既習の知識と関連づけて深く理解し，様々な場面で活用できる技能へと高められるようにしています。 ● 「例」と似た型の問題に「◆マーク」を示したり，「補充の問題」を用意したりし，個に応じた基礎的・基本的な知識や技能が習得できるようにしています。(p.50など) ● 「基本の問題」を節末に設け，節の基本的な内容の理解を確認し，早期につまずきに対応できるようにしています。(p.26, 38, 54など) ● 全国学力調査等のエビデンスに基づき，課題が見られる内容の取扱いを丁寧にし，典型的な誤答を「まちがい例」で取り上げたりしています。(p.132-133, 140など) ● 巻末「学びのつながり」では，前の学年(算数)と当該学年(1年)の重要事項を確認できるようにしました。「算数の確認」では，割合や速さなどつまずきの多い内容を中心に取り上げています。(p.305-306)
<p>「思考力・判断力・表現力等」の育成のための取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Qマーク」では「見方・考え方」を引き出し，学びを振り返って「見方・考え方」を意識づけたることができるようにしています。(p.81, 82, 123, 57, 119, 174など) ● 「深い学びのページ」では，問題発見・解決の過程を意図した活動を通して「思考力・判断力・表現力」の育成を図っています。(p.55-56, 101-102など) また，「大切にしたい見方・考え方」では，問題解決で働かせた「見方・考え方」を振り返り，さらに豊かなものにできるようにしました。(p.245-250) ● 「活用の問題」では，身につけた知識・技能を活用して問題を解決する過程で，自ら考え表現する力を高める「記述式の問題」を用意しています。(p.87-88, 151-152, 243-244など) ● 「数学の自由研究」では課題学習に取り組み，「レポートにまとめよう」を参考にして，その成果をまとめる活動が行えるようにしています。(p.251-262)
<p>「学びに向かう力，人間性等」の育成のための取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「章とびら」では生徒の疑問を引き出して学習への動機づけをし，「節の導入」では疑問?から次の学びへと向かう意欲が高まるよう工夫しました。(p.17-19, 89-91, 153-155など) ● 「学びをふり返ろう」を節などの内容のまとめりに設け，問題解決で働かせた見方・考え方などを振り返り，数学のよさを実感できるようにしました。(p.57, 77, 106, 119, 174など) ● 「学びをひろげよう」では，数学と実社会や職業とのつながりを伝え，数学の有用性を実感できるようにしました。(p.182-183, 240-241)
<p>学習方法，展開の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 0章「算数から数学へ」を授業開きで使える単元として設定し，数学的活動の楽しさを味わいながら「学び方」が身につくよう工夫しました。(p.9-16) ● 「大切にしたい数学の学び方」では，問題解決の進め方とともに，発表のしかたや聞き方，振り返りや深める視点などがわかるようにしています。(p.6-7) ● 「ノートのつくり方」「数学マイノート」では，基本的なノートの使い方，思考の過程や振り返りの記述例を紹介し，学習習慣として身につくようにしています。(p.8, 14-15)
<p>教科横断的な教育課題への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「防災・安全」「環境」「多様性の尊重」「伝統・文化の尊重」に関わる題材などに「他教科 教科関連マーク」をつけ，教科横断的に取り組む際の参考となるようにしています。さらに，「Dマーク」のついた箇所では，関連する他教科の教科書紙面を閲覧できます。(p.158, 259など)
<p>教育のICT化への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Dマーク」のついた箇所では，インターネット上のデジタルコンテンツを使って効果的な学習が行えるようにしています。(p.4-5) ● 発行予定の「学習者用デジタル教科書」はビューアによる色反転や自動読み上げ，総ルビなどの機能を有し，特別支援教育において効果的に活用できます。「指導者用デジタル教科書(教材)」も発行予定です。
<p>特別支援教育への対応，ユニバーサルデザインの取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育の専門家の校閲を受け，色数を減らし，無駄な情報やデザインを排したシンプルデザインを採用し，生徒が集中して学びやすい紙面を追求しました。 ● 色覚問題の専門家により，全ページにわたって配色に関する検証を行い，カラーユニバーサルデザインに対応しています。

授業支援と教員の
負担軽減への取り組み

- 「学習課題」を学習のまとめりに設け、授業時間の区切りや指導のねらいがわかるようにしています。
- 「Q」には「補助発問①, ②, …」を設けて一連の活動を示し、授業の流れやまとめりがわかるようにしています。(p.64-65, 94など)
- 「深い学びのページ」では問題発見・解決の過程を紙面化し、一連の活動を通して「主体的・対話的で深い学び」が実現できるようにしています。(p.145-146, 177-178など)
- 節末、章末、巻末の全問題の「解答」を巻末に用意しました。「章の問題B」には「考え方」「説明のポイント」を示し、生徒の自学自習を促しています。(p.278-291)
- 「紙の学習具」を巻末に用意し、ミシン目や切り込みを入れて簡単に組み立てられるよう工夫し、時間短縮につながるようにしました。(p.297-304)
- 「Dマーク」のついた箇所に、シミュレーションや実験映像などを用意し、教材準備にかかる負担を軽減できるようにしました。(p.4-5)

2. 対照表

単元名	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
0章 算数から数学へ 1節 整数の性質	A数と式 (1)	9ページ 10～13ページ	3
1章 数の世界をひろげよう [正負の数] 1節 正負の数 2節 加法と減法 3節 乗法と除法 4節 正負の数の利用	A数と式 (1) (1) ア (ア) (1) ア (イ), イ (ア) (1) ア (イ), イ (ア) (1) ア (ウ), イ (イ)	17ページ 18～26ページ 27～38ページ 39～54ページ 55～57ページ	25
2章 数学のことは身につけよう [文字と式] 1節 文字を使った式 2節 文字式の計算 3節 文字式の利用	A数と式 (2) (2) ア (ア) (2) ア (イ), ア (ウ), イ (ア) (2) ア (エ)	61ページ 62～72ページ 73～80ページ 81～85ページ	18
3章 未知の数の求め方を考えよう [方程式] 1節 方程式とその解き方 2節 1次方程式の利用	A数と式 (3) (3) ア (ア), ア (イ), イ (ア) (3) イ (イ)	89ページ 90～100ページ 101～109ページ	14
4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう [比例と反比例] 1節 関数と比例・反比例 2節 比例の性質と調べ方 3節 反比例の性質と調べ方 4節 比例と反比例の利用	C関数 (1) (1) ア (ア), ア (イ), イ (イ) (1) ア (イ), ア (ウ), ア (エ), イ (ア) (1) ア (イ), ア (ウ), ア (エ), イ (ア) (1) イ (イ)	113ページ 114～122ページ 123～134ページ 135～144ページ 145～149ページ	22
5章 平面図形の見方をひろげよう [平面図形] 1節 図形の移動 2節 基本の作図 3節 おうぎ形	B図形 (1), (2) (1) ア (イ), イ (イ), イ (ウ) (1) ア (ア), イ (ア) (2) ア (イ)	153ページ 154～164ページ 165～178ページ 179～181ページ	17
6章 立体の見方をひろげよう [空間図形] 1節 いろいろな立体 2節 立体の見方と調べ方 3節 立体の体積と表面積	B図形 (2) (2) ア (ア), イ (ア) (2) ア (ア), イ (ア) (2) ア (イ), イ (イ)	187ページ 188～192ページ 193～208ページ 209～217ページ	18
7章 データを活用して判断しよう [データの分析と活用] 1節 データの整理と分析 2節 データの活用 3節 ことからの起こりやすさ	Dデータの活用 (1), (2) (1) ア (ア), ア (イ) (1) イ (ア) (2) ア (ア), イ (ア)	221ページ 222～232ページ 233～234ページ 235～239ページ	10
		計	127

編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-48	中学校	数学	数学	1
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	数学 701	新しい数学 1		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
75	同類項	1	第1学年 2内容 A数と式 (2) ア (ウ) 「簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。」	0.25
105	歩いたようすをグラフに表すと?	1	第1学年 2内容 C関数 (1) イ (ア) 「比例, 反比例として捉えられる二つの数量について, 表, 式, グラフなどを用いて調べ, それらの変化や対応の特徴を見いだすこと。」	0.25
257	グラフを使って考えよう	1	第1学年 2内容 C関数 (1) イ (ア) 「比例, 反比例として捉えられる二つの数量について, 表, 式, グラフなどを用いて調べ, それらの変化や対応の特徴を見いだすこと。」	1
合計				1.5

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上, 隣接した後の学年等の学習内容 (隣接した学年等以外の学習内容であっても, 当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む) とされている内容
- 2…学習指導要領上, どの学年等でも扱うこととされていない内容